

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	関係法規・制度	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	理容師・美容師の資格を定めるとともに、理容の業務が適正に行われるように規律し、もつて公衆衛生の向上に資することを目的とする。また、理容師・美容師の社会における役割や、職業上、必要な制度について勉強する								
学習目的	理容師・美容師として必要な国家試験の内容やそれに伴う各行政機関の役割を理解し、社会生活における理容師としての役割について学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「関係法規・制度」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	法制度の概要	法が必要とされる理由や特徴・種類など法の役割について学ぶ	
第2回	衛生法規の概要	衛生行政の目的を理解し、国と地方が行なう行政の関係を学ぶ	
第3回	衛生行政の意義と歴史	国民生活の公衆衛生を増進するための衛生行政を理解し、衛生行政のこれまでの歴史と発展および現在の衛生行政の課題を学ぶ	
第4回	衛生行政の分類と生活衛生行政の内容	衛生行政の種類と、それらを所管する機構と内容について学ぶ	
第5回	理容師法の目的	理容師法・美容師法の考え方、仕組み、規制を理解し、理容師・美容師が適性に理容・美容の業を行うために必要な事を学ぶ	
第6回	理容師法の用語の定義	理容師法・美容師法で特に必要だと思われる用語を学ぶ	
第7回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師の養成、試験、免許の仕組み、等について学ぶ	
第8回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師の免許と登録について学ぶ	
第9回	人(理容師・美容師)に関する規定	理容師・美容師が管理業務を行なうときに厳守しなければならない義務について学ぶ	
第10回	施設(理容所・美容所)に関する規定	レディースシェービングの姿勢・レーザーの角度の確認運行・スピードの確認(実技試験)	
第11回	施設(理容所・美容所)に関する規定	理容書・美容所以外での衛生措置について学ぶ	
第12回	違反者に対する行政処分・罰則	違反者に対する罰則や、理容所・美容所に対する処分および罰則について学ぶ	
第13回	理容師法・美容師法のまとめ	理容師法・美容師法の復習・理解	
第14回	関連法規	理容師・美容師及び理容所・美容所を営む場合に必要となる法律について学ぶ	
第15回	関連法規まとめ 理容師・美容師試験	理容師・美容師試験対策	

到達目標	1. 理容師・美容師国家試験(関係法規・制度)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
							講義	演習	実習実技
美容科	2学年	衛生管理	必修	30	1		○		
授業の概要	消毒法を知り、理学的消毒法、化学的消毒法の特徴を学ぶ。消毒薬の種類と濃度計算式を理解する。清潔保持と清掃の意義を知る								
学習目的	理容所・美容所における適切な消毒薬、消毒法								
教科書	日本理容美容教育センター「衛生管理」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類・病原微生物の抵抗力	
第2回 ～ 第4回	消毒法各論・理学的消毒法	紫外線消毒・煮沸消毒・蒸気消毒	
第5回 第6回	化学的消毒法	アルコール類の消毒・次亜塩素酸ナトリウム・界面活性剤・逆性石鹼	
第7回 第8回	すぐれた消毒法と実施上の注意	消毒法の条件、注意事項	
第9回 第10回	消毒法実習	各種消毒薬・消毒薬と希釈液濃度	
第11回 第12回	消毒薬希釈法	各種消毒薬希釈の手順	
第13回	理容所・美容所の消毒	消毒設備・器具の消毒法・消毒の現状	
第14回	理容所・美容所の消毒法	洗剤による清浄法・衛生昆虫の駆除	
第15回	衛生管理技術のまとめ	消毒法と特徴・器具、布片の消毒法・希釈法	

到達目標	理容師・美容師国家試験(衛生管理)合格レベルの知識習得 理美容師の社会責任・職儀容倫理への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	保健	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)について具体的な知識を持つ								
学習的	皮膚・毛髪などを主とする知識を美容技術と関連づけて学ばせる								
教科書	日本理容美容教育センター「保健」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚の異常とその種類/皮膚疾患の原因	
第2回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	皮膚疾患の治療法/皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹/口唇の疾患/温熱・寒冷による皮膚疾患	
第3回			
第4回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	血管腫(アカアザ)/脂腺母斑/下肢静脈瘤	
第5回			
第6回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	分泌異常による皮膚疾患/化膿菌による皮膚疾患	
第7回			
第8回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	ウイルスによる皮膚疾患/細菌による皮膚疾患	
第9回			
第10回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	真菌による皮膚疾患/衛生害虫による皮膚疾患	
第11回			
第12回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	感染症の皮膚疾患の予防	
第13回			
第14回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	毛と爪の疾患/皮膚の腫瘍	
第15回			

到達目標	理容師・美容師国家試験(保健)合格レベルの知識習得
成績評価	期末試験 単位認定 60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	化粧品化学	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	学科及び実技としての化粧品化学を理解できるように授業を進める。また、「衛生管理」、「保健」「理容・美容技術理論」など、他教科との関連性を付ける								
学習目的	理容師・美容師として重要な意義をもつ「化粧品化学の理解と応用能力」を身に付けさせる								
教科書	日本理容美容教育センター「化粧品化学」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	頭皮・毛髪用化粧品	シャンプー剤	
～		スタイリング剤	
～		パーマ剤	
～		ヘアカラー製品	
第9回		育毛剤	
第10回	芳香製品と特殊化粧品	芳香製品・特殊化粧品	
～			
第14回			
第15回	化粧品まとめⅡ	化粧品化学の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容師・美容師国家試験合格レベルの知識習得 人の生体の成分に化学変化を与える化粧品の基本知識を習得し、その危険性について認識する 化粧品化学の知識・理解を深め美容の専門家への道を拓く
成績評価	期末試験 単位認定 60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	文化論	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	「日本」「西洋」の髪型、メイク、ファッションの歴史を学び、現代にどのように受け継がれ活かされているかを学ぶ								
学習的	理容・美容の文化史を学び「ファッション」について考え、コミュニケーションのツールと共に歴史を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	ファッション文化史 西洋編	古代エジプト	
第2回		古代ギリシャ・ローマ	
第3回		古代ゲルマン	
第4回		中世ヨーロッパ	
第5回		近世Ⅰ(16世紀)	
第6回		近世Ⅱ(17世紀)近世Ⅲ(18世紀)	
第7回		近代Ⅰ(18世紀末～19世紀初め)近代Ⅱ(19世紀)	
第8回		現代Ⅰ(1910年～1920年代)現代Ⅱ(19130年～1940年代前半)	
第9回		現代Ⅲ(1940年後半～1950年代)現代Ⅳ(1960年代)	
第10回		現代Ⅴ(1970年代)現代Ⅵ(1980年代)	
第11回		現代Ⅶ(19690年～2010年代)	
第12回	皮膚と皮膚付属器官の疾患	和装の婚礼	
第13回		洋装の婚礼	
第14回		ファッション文化史年表	
第15回	文化論まとめⅡ	文化論の国家試験(筆記)対策問題練習	

到達目標	理容・美容文化史の移り変わりを知り、お客様にファッションについてアドバイスができる
成績評価	期末試験 単位認定 60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	美容技術理論	必修	60	2.0	○	講義	演習	実習実技
							○		
授業の概要	国家試験課題を学習し理解することによって、実技課題の習得を容易にする。美容技術理論Ⅰ・Ⅱで学んだ事を土台として、さらにトータル的に美容について習得していく。								
学習目的	美容技術理論を学び幅広い知識を得ることで、基礎または、サロンワークへの技術に結び付け応用することが可能になる。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容理論Ⅱ」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	エステティック概論 皮膚の整理と構造について	エステの歴史について	
第2回	カウンセリング マッサージ理論について	身体構造を学ぶ	
第3回	フェイシャル技術について	皮膚の構造や生理、代表的な皮膚の異常な状態	
第4回	フェイシャル及び デコルテマッサージについて	デコルテの筋肉や僧帽筋について	
第5回	ボディケアについて	容姿全体の美的調和について	
第6回	総まとめ	エステティックは人の陽子を美しく整えることを目的とし、毛髪美粧以外の全身に関わる美容法を理解する。	
第7回	ネイル技術概論①	ネイルの歴史について	
第8回	ネイル技術概論②	ネイルケア・アーティフィシャルネイル	
第9回	爪の構造と機能	爪の各部名称について	
第10回	爪のカット形状	爪の形の違い	
第11回	ネイル技術と公衆衛生	ネイルに必要な衛生技術	
第12回	総まとめ	第1回～第11回のまとめ	
第13回	メイクアップ概論①	メイクの歴史について	
第14回	メイクアップ概論②	顔のプロポーション	
第15回	皮膚の整理と構造	表皮・真皮・付属器官について	
第16回	メイクアップ道具 スキンケア	ブラシ名称・クレンジングなどについて	
第17回	ファンデーション	ベース・アイブロウ・アイメイク・リップ	
第18回	総まとめ	メイクアップとは顔の表面に色を塗ることだけではなく、感性・感覚・どんなニーズにも適応できる多面的な知識を学習	
第19回	日本髪由来	日本髪の歴史について	
第20回	日本髪の各部の名称	鳥田髷における各部名称	
第21回	日本髪の種類と特徴	日本髪の代表的な髪形	

第22回	日本髪 <small>の</small> 装飾品	色打掛・花嫁衣裳 <small>に使用する装飾品</small>	
第23回	日本髪 <small>の</small> 手入れ	由来・各部 <small>の</small> の名称・種類と特徴	
第24回	着付け <small>の</small> 目的	着付け <small>の</small> 歴史 <small>について</small>	
第26回	着物 <small>の</small> いろいろ	代表的な着物 <small>を紹介する</small>	
第26回	着物 <small>の</small> 各部 <small>の</small> 名称	帯・小物 <small>の種類・着物名称・たたみ方など</small>	
第28回	留袖・振袖 <small>について</small>	留袖・振袖・小物 <small>の種類</small>	
第29回	男子礼装・袴着付け	男子礼装 <small>の種類・袴の技術について</small>	
第29回	花嫁	白・色打掛・小物 <small>の種類/ドレス名称</small>	
第31回	着付け <small>の</small> 理論と技術	着付け <small>の</small> 目的・各部 <small>の</small> 名称・全体 <small>の</small> 技術 <small>の</small> 総まとめ	
第32回	まつ毛エクステンション	道具・カウンセリング・アフターケア・クレンジング	
第32回	和装生地 <small>の</small> 知識	生地と特徴	
第34回	季節と生地・仕立て	季節 <small>に合わせて生地選び</small>	
第35回	TPO別女子和装基本ルール	シーン <small>に合わせての着物選び</small>	
第35回	TPO別男子和装基本ルール	シーン <small>に合わせての着物選び</small>	

到達目標	理美容師国家試験(美容技術理論)合格レベルの知識習得 理美容師の社会責任・職業倫理への理解
成績評価	期末試験 単位認定60点以上
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	美容実習 (ヘアカッティング)	必修	210	7	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	美容師として必要な知識及び技能を習得する。								
学習目的	実技試験において技能面、衛生面を理解する。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容実習1」								

授業計画				
回	主題	授業内容	備考	
第1回 ┆ 第5回	国家試験第1課題 カッティング	ブロッキングを理解し、正確に取る		
第6回 ┆ 第9回		シェーブの仕方、立ち位置を理解する		
第10回 ┆ 第19回		ブロックごとに切り方を理解する		
第20回 ┆ 第34回		反復で行い、手順をしっかり覚える		
第35回 ┆ 第44回		毛髪の長さ、ヘムラインのつながり、カットライン(切り口)のつながり、左右シンメトリーを理解する		
第45回 ┆ 第62回		反復授業・時間短縮。目標時間に到達する		
第63回		国家試験第1課題 カッティング・シュミレーション	作業を行う前に使用する用具類等の規格適合を理解する	
第64回			用具類の品目、数量確認	
第65回	用具の衛生状態			
第66回	用具類の収納状況			
第67回	ウィッグ等の血液付着状況			
第68回 ┆	作業終了時のモデルウィッグの顔面拭き取り			

第70回			
------	--	--	--

到達目標	理美容師国家試験(カッティング)合格レベルの知識習得		
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価		
備考			

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	美容実習 (ワインディング)	必修	150	5	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験課題(ワインディング)の構成を習得して合格し、就職した際の即戦力になるように巻き方他、形の確定する。								
学習的	学期ごとにタイムを縮めて最終的に国家試験のタイムに(20分)と合わせて衛生の道具と一緒に練習する。								
教科書	理容師美容師試験センター「実技課題集」								

授業計画			
回	主題	授業内容	備考
第1回 ┆ 第15回	ブロッキング・ワインディング	1年次の見直し、巻き方(上巻き・下巻き・ラウンド巻き・サイドの巻き方)	
第16回 ┆ 第30回	国家試験第2課題 ワインディング	ブロッキングの短縮、時間設定しながら全頭巻きをする	
第31回 ┆ 第39回	国家試験第2課題 衛生道具の手順	作業を行う前に使用する用具類等の規格適合を理解する 用具類の品目、数量確認 用具の衛生状態 用具類の収納状況 用具類の血液付着状況 用具類の落下状態の対応	
第39回	国家試験第2課題 ワインディング	衛生面と反復練習(タイム管理・見直し) 全体の見直し	
第40回 ┆ 第50回	国家試験第2課題 ワインディング・シミュレーション	シミュレーション1回目 シミュレーション2回目 シミュレーション 3回目 シミュレーション4回目 シミュレーション5回目 最終見直し 最終チェックと国家試験注意点	

到達目標	国家試験合格目指して繰り返し練習をすることによって、技術の上達と反復練習の大事さを学ぶ 就職先でも反復練習をして技術の向上を目指し、社会に貢献できるようになる
成績評価	期末試験 単位認定60点以上

備考	
----	--

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	美容実習 (オールウェーブ セッティング)	必修	210	7	○	講義	演習	実習実技
									○
授業の概要	国家試験第2課題(オールウェーブ)25分で合格し社会に貢献する								
学習的	構成をしっかりと覚える タイム内に入って国家試験に合格する。								
教科書	理容師美容師試験センター「実技課題集」								

授業計画			
回	主題	授業内容	備考
第1回	オールウェーブセッティング	ウェーブとピンカールの復習 両サイドウェーブ作成	
∩		反復練習と見直し	
第18回		リフトカール技術の一例 ストランドの角度 ピンニング(片面打ち)	
第19回	オールウェーブセッティング	メイポールカール技術の一例 ベースをとるストランドカール ピンニング(クロスピンニング)	
∩		クロッキノールカール技術の一例 ベースをとり根元から巻くフラットカール ピンニング(両面打ち)	
∩		完成させる	
∩		ウェーブとカールの強化 反復練習と見直し	
∩		時間管理 国家試験タイム25分	
第45回		ウィッグ作成 カール部分にパーマネントウェーブの施術	
第46回	国家試験第2課題オールウェーブセッティング 衛生道具の手順	作業を行う前に使用する用具類等の規格適合を理解する	
∩		用具類の品目、数量確認	
∩		用具の衛生状態	
∩		用具類の収納状況	
∩		用具類の血液付着状況	
∩		作業時のモデルウィッグの顔面拭き取り	
第55回		衛生面と反復練習(タイム管理・見直し)	
第56回	国家試験第2課題 オールウェーブセッティング	シミュレーション 1回目	
∩		シミュレーション 2回目	
∩		シミュレーション 3回目	
∩		シミュレーション 4回目	
∩		シミュレーション 5回目	
∩		最終見直し	

第70回		最終チェックと国家試験注意点	
------	--	----------------	--

到達目標	国家試験に合格する		
成績評価	期末試験 単位認定60点以上		
備考			

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	特別教育授業	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	理容・美容の現場で活用できる外国語やヘアデザインに必要なデッサン・ヘアスタイル画の描き方の習得、身体機能や運動機能を学ぶ体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
学習目的	理容・美容の現場で増えつつある、外国人のお客様へのコミュニケーションの習得やお客様からの要望を叶えるためのデッサン力の習得、また体育活動を通して幅広い知識を学ぶ								
教科書	日本理容美容教育センター「外国語」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回 ┆ 第4回	美術	ヘアデザイン画の作成	
第5回 ┆ 第7回	体育①	球技、運動を通してチームワーク、コミュニケーション能力を養う	
第8回 ┆ 第10回	体育②	校内技術大会等を通して技術の向上、競争力を養う	

到達目標	海外研修旅行での英会話でのコミュニケーション能力の習得とヘアデザイン画の作成
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	スペシャル授業	必修	60	2.0		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	理容師・美容師の技術で身だしなみを整えQOLの向上に繋げ、お客様の尊厳を守り、その人らしさを出し、生活の支えになるように心がける。								
学習目的	美容に関する技能と知識の基礎を習得し、サロンワークに必要な技術で自己表現・自己実現を図り技術や感性を磨き仕事の幅を待たせる。								
教科書	日本理容美容教育センター「美容技術理論ⅠⅡ」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	着物・帯の種類・小物	名称を覚える。TPOに合わせる	
	着物のたたみ方	本たたみ・夜具たたみ・長襦袢のたたみかた	
	着付けの一般的要領	着物の着付け方、帯の結び方等、年齢・体型を考慮して着付けを行う	
第7回	メイクアップ理論	授業を受ける際の注意事項・道具の点検と手入れ法	
	スキンケア～ベースメイク手順	スキンケア～ベースメイク手順 相モデル練習	
	フルメイク	スキンケア～フルメイクまでの完成 モデルを変えて完成	
第18回	ヘアモード	ヘアセット基本の練習	
	編みこみ	ロープ編み・表三つ編み・裏三つ編み／ロープ編み・三つ編みくずしバージョン／四つ編み・四つ編みくずしバージョン	
	相モデル練習	アイロンを使用したスタイル	

到達目標	よりよい技術と心をお客様に提供できるような接客をする
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価

備 考	
-----	--

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	接客・接遇	必修	30	1		講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	社会人に求められる常識的な心得を十分理解させ、マナーに対する知識、態度、技能を身につけさせる。								
学習的	社会人になる前の最終学校として、節度ある学生を育成し、即戦力として活躍できる人材を育てる。								
教科書	オリジナル資料「サロンワーク」								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	接客・接遇の応用	電話での対応・カルテの管理・来店時の対応	
第2回	ジョブカフェ(青森県若年者就職支援センター)	就職における面接指導・履歴書の書き方	
第3回	サロンでの実習	受付、対応、マナーの練習と実地訓練	
第4回	サロンでの実習	相モデルでの接客訓練	
第5回 、 第7回	施設でのハンドマッサージ	地域施設での課外授業(ハンドマッサージ)	
第8回	赤十字ボランティア清掃活動	地域清掃、登下校通学路	
第9回	赤十字ボランティア青森マラソン	青森マラソン(給水活動)	
第10回 第11回	赤十字ボランティア炊き出し訓練	地域赤十字団との合同炊き出し訓練	
第12回 第13回	サロンでの実習(応用)①	就職に向けての接客訓練	
第14回	サロンでの実習(応用)②	就職に向けての接客訓練(実技試験)	
第15回	まとめ・総合	接客・接遇・ボランティアのまとめ	

到達目標	マナーや接客業の知識とボランティア活動を通して節度ある人材に育成しているか判断する
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価
備考	

シラバス

学科名	学年	課目名	必修選択の別	時間数	単位	実務経験	授業の方法		
美容科	2学年	総合技術	必修	120	4	○	講義	演習	実習実技
							○		○
授業の概要	基本的技術を基に、さらに発展した高度な技術を習得するとともに、最新技術の習得を目指す。集大成としてヘアショーを開催し観客に披露する。								
学習目的	2年間の集大成の発表 ヘアショーを成功させる。								
教科書	オリジナル資料「過去のヘアショーの資料、DVD」等								

授業計画

回	主題	授業内容	備考
第1回	メイク①	(ヘアショー用舞台メイク)テーマを決める。モデルを決める。2年次で実習したことや雑誌・ネットなどを参考に決める	
第2回	メイク②	(ヘアショー用舞台メイク)モデルの輪郭・パーツを見ながらテーマに沿って決める	
第3回	メイク③	(ヘアショー用舞台メイク)モデルにメイクをする。色々なメイクをして決める	
第4回	メイク④	(ヘアショー用舞台メイク)モデルのメイクの決定。練習 終わった後のケアをする	
第5回	ネイル①	(ヘアショー用舞台ネイル)テーマに沿ってデザインをきめる。道具の準備等をする	
第6回	ネイル②	(ヘアショー用舞台ネイル)モデルの爪にチップ 形・大きさを合わせる	
第7回	ネイル③	(ヘアショー用舞台ネイル)チップ作成	
第8回			
第9回	セット①	(ヘアショー用舞台ヘア)テーマに沿って、メイク・ネイルが決まったので作る。パターンをいくつか作る	
第10回	セット②	(ヘアショー用舞台ネイル)決定したヘアを作る。テーマに沿っているか話し合いして決める	
第11回	セット③	(ヘアショー用舞台ネイル)練習する	
第12回	セット④	(ヘアショー用舞台ネイル)メイク・ネイルに基づいて作り決定する	
第13回	カラー①	テーマに沿ってブリーチから入る カラーの色を決めて技術に入る	
第14回			
第15回			
第16回	カラー②	色みを見て完成	
第17回	ファッション①	テーマ・メイク・ヘア・ネイル・カラートータル的に見て決める	
第18回			
第19回	ファッション②	小物や装飾品の確認・決定	
第20回			
第21回	映像	必要な素材を探して編集	
第22回 ↓ 第25回	音楽	場面に合うように編集	
第26回 ↓ 第28回	演出	細部までチェックを行う作業	

第29回 ～ 第31回	振付	音楽に合わせたウォーキング・ポージングの練習・決定	
第32回 ～ 第34回	舞台セット	会場作りとレイアウトの修正・決定	
第35回 ～ 第37回	写真	撮影のタイミング、ポージングの決定	
第38回 ～ 第40回	ヘアショー	2年間の集大成を発表	

到達目標	ヘアショーを成功・連帯感		
成績評価	単位認定 出席率、授業態度、レポート等の提出で総合的評価		
備考			